

令和7年度 学校評価

王寺町立王寺南義務教育学校

<p>教育目標 「学び続けて未来を拓く～自律、挑戦、協創～」</p> <p>運営方針</p> <p>①児童生徒の実態を把握し、児童生徒が主役で、安心・安全に学校生活を送ることができるよう教育活動を進める。</p> <p>②開校3年目を迎え、分離型義務教育学校ならではの取組(9年一貫教育)を進める。</p>
---

※児童生徒、保護者アンケートの結果については、  
 肯定的回答の割合が、 ◎ A:80%以上 ○ B:79%～60% △ C:59%～40% ▼ D:39%以下 として、自己評価に反映。  
 ※自己評価については、 できた…A どちらともいえない…B 課題が見られる…C の3段階で評価。

※自己評価の妥当性については、  
 妥当である…○ 妥当ではない…△ として評価

大項目	中項目	小項目	評価指標	児童生徒、保護者アンケート結果 (数値%はアンケートの肯定的回答)	教員アンケート結果 (数値%はアンケートの肯定的回答) 取組と成果	自己評価	課題・改善方策	学校関係者評価	
								自己評価の妥当性	学校への助言等
I 教育活動に関するもの	I 教育目標 教育活動全般	(1) 教育目標	児童生徒が充実した生活を送っている。	◎学校は楽しい。 1～4年 94%(90%)	◎児童生徒が充実した学校生活を送れるよう努めている。 教員 100%(100%)	A (A)	□学校教育目標である「自律・挑戦・協創」について、児童生徒への意識付けを日頃から継続的に行い、自分で決めて行動し、目標に向かってやり抜き、人に優しい子どもの育成をめざす。	○	●昨年度に比べ、どの学年も落ち着きが見られる。
		(2) 教育活動の評価	◎充実した学校生活を送っている。 5～7年 94%(91%) 8～9年 89%(94%) 保護者 95%(92%)	◇児童生徒会が今年度スローガンに掲げた、いじめのない学校を目指して、全職員一丸となって、教育活動を進めた。	□学校全体で取り組む行事を中心に、上級生があこがれの存在となるよう、企画・運営する機会を設定し、児童生徒が主役となる学校をめざす。		●部活動においては、熱心で楽しそうな姿がよくみられる。		
			児童生徒が行事等に生き生きと取り組んでいる。	◎係や当番の仕事や児童会(委員会)活動、クラブ活動・部活動などに積極的に取り組んでいる。 1～4年 93%(93%) 5～7年 93%(93%) 8～9年 92%(93%) 保護者 92%(92%)	◎児童生徒会活動の活性化に向けた取組を行っている。 教員 95%(94%)	A (A)	□4-3-2制の学年区分を意識し、昨年度の課題である5年生ギャップを克服するため、5年生が1～4年生を対象にした交流の機会を設定し、自己有用感を育む取組を今後も継続する。	○	
			◎子どもたちは様々な行事に生き生きと取り組んでいる。 保護者 95%(94%)	◇様々な分野における外部人材を活用し、体験的な学習を通してキャリア教育を実施することができた。	□児童生徒の将来に向けた取組として、9年生の卒業式、7年生の立志式、6年生の6年間の感謝を伝える会、4年生の旅立ちの式と、様々な節目で儀式的な行事を通して、夢や目標を該当学年の保護者を招いて語りかける取組を実施する。				
2	学習指導及び学習環境	(1) 学習意欲 学習環境	落ち着いた環境の中で、学力向上を目指し、児童生徒の意欲を高める取組を進めている。	◎授業を通して「できたこと」「わかったこと」が増えたと感じる。 1～4年 94%(95%) 5～7年 96%(93%) 8～9年 92%(95%)	◎教員が互いの授業を見合い、指導力の向上を図っている。 教員 91%(85%)	A (A)	□全ての児童生徒にとって分かりやすい授業づくりとして「めあて」を明確にし、デジタル教材の活用を中心に視覚的に示す等、好奇心を駆り立てる発問や助言など、学校全体で意識して取り組む。	○	●「学校は、落ち着いて学習できる雰囲気である。」の項目において、保護者評価が上がっていることは、日々の学級づくりや先生方の取組の成果が表れていると感じる。
			◎授業を通して、「伝える力」や「考える力」がついた。 5～7年 90%(92%) 8～9年 87%(87%)	◎総合学力調査の結果分析をもとに、9年間の系統的な教科指導を行っている。 教員 94%(87%)	□全ての教科等の基礎となる汎用的基礎読解力(リーディングスキル)の向上に向け、先進地への視察や授業研究、教職員研修を実施し、授業力を向上させる必要のある分野を確認しつつ、普段の授業に活用する方法の構築に取り組む。				
			◎学校は、落ち着いて学習できる雰囲気である。 保護者 82%(78%)	◇教員の授業力向上に向け、授業研究の機会を増やし、児童生徒の学習意欲を高める指導に努めた。	◇各テストの結果や日常の授業の振り返りを授業改善に生かすように努めた。				

<p>(2) 新たな環境を生かした指導方法の工夫改善</p>	<p>デジタル教科書等のICT機器を活用した授業を進めている。</p>	<p>◎クロームブックやデジタル教科書などのICT機器を活用した授業は、わかりやすい。 1～4年 94%(92%) 5～7年 83%(90%) 8～9年 75%(82%) 保護者 87%(84%)</p> <p>◎学校は、デジタルドリルや総合学力調査など様々な工夫をして学力向上に努めている。 保護者 86%(82%)</p>	<p>◎ICT機器を効果的に活用した学習を行っている。 教職員 94%(97%)</p> <p>◇ICT支援員のサポートにより、充実した活動(全国学力学習状況調査・CBT・アンケート等)ができた。</p> <p>◇ICT機器の活用については、PTA運営委員会等で、保護者や地域に取り組みや活用方法を周知した。</p>	<p>A (A)</p>	<p>□ICT支援員の協力の下、個別最適化の時間に学習意欲を高める授業づくりに向け、ICTの活用方法を構築する。</p> <p>□2学期より新しいクロームブックが支給され、取り扱い方については、さらに保護者への注意喚起も含め啓発が必要である。</p> <p>□総合学力調査の結果を授業に生かし、デジタルドリルを効果的に活用し基礎学力の定着とともに、個別最適な学習の推進に努める。</p>	<p>○</p> <p>▲「クロームブックやデジタル教科書などのICT機器を活用した授業は、わかりやすい。」の質問に対し、8～9年生の数値が低いことが気になる。</p> <p>◆新しいクロームブックの取り扱い方については、さらに保護者への注意喚起も含め啓発が必要である。</p> <p>◆児童生徒にあった学習課題に取り組んでいるか、教員の把握が必要である。</p>
<p>自分にあった学習をするなど、個別最適化の学習を進めている。</p>	<p>○デジタルドリルなどを使い自分にあった学習課題に取り組む、できなかったことができるようになった。 1～4年 90%(91%) 5～7年 77%(80%) 8～9年 63%(65%)</p>	<p>◎デジタルドリルなどを活用した個別最適な学習を行っている。 教員 93%(93%)</p> <p>◇太子学舎では金曜日午前中40分5限授業、畠田学舎では文科省授業時数特例校の指定を受け45分授業を実施し、生み出した30分を「いつ今タイム」と位置づけて取り組み、個別最適な学習の在り方の研究を進めた。</p>	<p>B (A)</p>	<p>□「いつ今タイム」の活用方法について、畠田学舎においては、5～9年で週4コマ30分、太子学舎ではさらに増やし、児童生徒の夢の実現に向けた自己調整学習や探究に充てる取組を進める。</p> <p>□デジタルドリルについては、「いつ今タイム」を中心に活用したが、効果的な活用方法の研究を進める必要がある。</p>	<p>○</p> <p>▲デジタルドリル等の活用において、児童生徒と先生方に活用意識のズレがある。</p> <p>●自己調整学習や探究に充てる取組に期待する。</p>	
<p>(3) 情報化への対応(プログラミング教育、リーディングスキルの育成、メディアセンターの活用)</p>	<p>メディアセンターを活用し、読書や調べ学習を進めている。</p> <p>◎プログラミングの授業は楽しい。 1～4年 94%(94%) 5～7年 75%(82%) 8～9年 71%(67%)</p> <p>○メディアセンターを活用して読書や調べ学習ができた。 1～4年 91%(94%) 5～7年 73%(72%) 8～9年 51%(58%)</p> <p>○子どもたちは、読書をする機会がある。 保護者 73%(77%)</p>	<p>○学校ではプログラミングの授業を行っている。 教職員 67%(69%)</p> <p>◎メディアセンターやICT機器を効果的に活用し、自ら課題を見つけ解決する学習を進めることができています。 教職員 85%(93%)</p> <p>◇学校司書の協力を得て、児童生徒のおすすめの本を紹介するコーナーを開設した。</p> <p>◇国語科・図工・美術科との教科横断的な取組として、6・8年生、図書委員会によるおすすめの本紹介、オンライン読書会、プリオバトルへの参加、ボランティアによる読み聞かせ等を行った。</p>	<p>B (B)</p>	<p>□プログラミングの授業に関しては、教科が限定されるため、教職員の数値は低くなっている。</p> <p>□今年度実施した、プリオバトルを定着させ、読書活動をさらに充実する仕掛けを国語科教員と学校司書と連携し構築する。</p> <p>□読解力向上のための研究で連携している教育研究所とタイアップして、読書活動を推進する取組を継続的に取り組む。</p>	<p>○</p> <p>◆読書に興味を持てるよう、例えば、教室に本を置くなどの工夫を行う。</p>	
<p>(4) グローバル化への対応(英語教育の推進)</p>	<p>英語教育に肯定的な回答を85%以上にする。</p> <p>◎英語を使って会話することは大切だと思う。 1～4年 91%(88%) 5～7年 83%(87%) 8～9年 75%(79%)</p> <p>◎学校は、ALTの活用や英語教育の推進に取り組んでいる。 保護者 84%(83%)</p>	<p>◎ALTを活用した英語教育に取り組んでいる。 教職員 94%(97%)</p> <p>◇教科として位置づけられている3年生以上は、専科教員による指導を行うとともに、全学年でALTを活用した授業に取り組んだ。</p> <p>◇1～9年生対象に英検講座を実施し、88(100)名が受検した。</p>	<p>A (A)</p>	<p>□県小外国語研究会の研究授業を畠田学舎で実施し、県内の外国語科担当教員に授業を公開した。その際、講師の先生より指導助言をいただいた内容について、授業改善に努めていく。</p> <p>□英語への興味・関心を高める授業づくりを進める。また、英検講座を実施するなど、9年生で英検3級以上の取得を目指す。</p>	<p>○</p> <p>◆英語に関しては、経験と学習の成果だけでなく、まずは興味をもつ仕掛けづくりが大切である。</p>	

	(5) 和プロジェクトの推進	王寺を知る、考える、関わる取組を進める。	◎王寺町についてさまざまなことを知る・考える・関わる取組を行っている。 1~4年 93%(92%) 5~7年 83%(84%) 8~9年 66%(68%)  ◎学校は、王寺町に関わる取組を行っている。 保護者 88%(85%)	○和プロジェクトの取組として、王寺町を知る・考える・関わる取組を行っている。 教職員 95%(79%)  ◇菜種油搾り体験、休耕田の芋ほり、観光ボランティアによる町探検、子ども一日町長体験、子ども議会体験等に参加した。  ◇町制100周年に向けた取組を実施した。	A (B)	□各学年で実施している王寺町や日常生活に関わるゲストティーチャーによる取組について、整理し、系統的一つ効果的に学習や体験が進められるよう計画を見直した。  □社会科や総合的な学習の時間を中心とし、社会に参画するシビックプライドの育成に向けた取組をより充実させる。	○	◆大人になったとき、「王寺に住んでいて良かった」と思えるよう、王寺町との関わりを持つ機会を増やしてもらいたい。
3 生徒 指導	基本的生活習慣 規範意識 社会性	あいさつなど、児童生徒に基本的な生活習慣、規範意識を身に付けている。	◎学校のきまりや社会のルールを守って生活している。 1~4年 99%(97%) 5~7年 91%(97%) 8~9年 95%(97%) 保護者 95%(90%)  ◎学校は、児童・生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせようとしている。 保護者 93%(90%)  ◎協力して掃除をしている。 1~4年 96%(95%) 5~7年 93%(95%) 8~9年 95%(90%)	◇学校生活のきまりを統一している。教員のきめ細かな指導により、落ち着いて学習ができる環境にある。  ◇伝統である南中式清掃を中心に異学年交流を実施し、先輩から後輩へ清掃方法を伝承している。  ◇全体的に、基本的な生活習慣や規範に対する意識は高い。  ◇オンラインによる全校朝会等の機会を活用し、目標や夢、生活ルールの確認、表彰伝達等による自己肯定感を涵養する場面を多く設定した。	A (A)	□全ての教員が、児童生徒の安心・安全な学校生活を守るべく、まずはあいさつを大切にコミュニケーションを図っていく。さらに、危機意識をもち、日々、児童生徒との関わりを深めていく。	○	●学校と地域・保護者の取組が、人間形成を支える大切な要素になっている。今後もその繋がりを継続してもらいたい。
			◎自分からあいさつをするよう心がけている。 1~4年 86%(91%) 5~7年 89%(91%) 8~9年 90%(89%)  ○子どもたちは、よくあいさつをしている。 保護者 79%(75%)	◎あいさつをするよう指導している。 教職員 100%(97%)  ◇生徒会長が、あいさつは大切であることを全校児童生徒へ伝えて、児童生徒会が中心となった「あいさつ運動」を毎週火・木曜日に実施した。  ◇児童生徒会が目標とした挨拶ができる学校をめざし、自発的な活動として「あいさつ運動」を進めた。	A (A)	□挨拶をはじめ、言葉遣いや礼儀作法について考える機会をより充実させる。	○	◆「あいさつ」の指導については、家庭によるものが大きいので、保護者への働きかけが必要である。
			◎自分の悩みや話を聞いてくれる友だちや先生がいる。 1~4年 95%(94%) 5~7年 91%(89%) 8~9年 88%(91%)  ○先生は、児童生徒と信頼関係があり、児童生徒の悩みや相談に丁寧に対応している。 保護者 83%(75%)	◎児童生徒の悩みに丁寧に対応している。 教職員 100%(100%)  ◎教育相談などを通して、児童・生徒の心のケアに努め、いじめや不登校などへの早期対応につながる指導を行っている。 教職員 98%(97%)  ◇いじめに関するアンケートや人権に関するアンケート、学校独自の生活アンケートを実施し、教育相談に活用した。  ◇SCやSSWと連携し、コンサルテーションやケース会議を適宜実施した。また、隔週で教育相談部会を開催し、SSWに参加してもらい専門的なアドバイスを受けた。  ◇不登校傾向にある児童生徒に対して、教員を配置し「やわらぎ教室」を中心とした居場所づくりに取り組んだ。	A (A)	□アンケートを定期的を実施し、児童生徒の実態把握に努め、教育相談週間により丁寧に対話を深める。  □「やわらぎ教室」の運用について、児童生徒が登校できるよう工夫を凝らし、さらに、保護者と情報の共有を適宜行う。  □SCやSSWとの連携を進め、命に関わる重大案件については、関係機関と連携し迅速に対応する。  □不登校傾向の児童生徒が増えてきていることが課題である。生徒指導部と教育相談部が連携して取組を今後一層進める。	○	●先生方は、児童生徒の悩みに対して、丁寧に対応している評価は高いが、先生方の心身の負担が大きくなっていないかが心配である。チームで対応することを期待する。  ◆不登校対応について、学校外にも王寺町内にケアできる場所を設置していく必要があるのではないか。

4 特別活動及び総合的な学習の時間等	学校行事 児童会活動 生徒会活動 部活動	<p>様々な行事に意欲的に取り組み、充実感や達成感を感じている。</p> <p>◎係や当番の仕事や児童会(委員会)活動、クラブ活動・部活動などに積極的に取り組んでいる。 1~4年 93%(93%) 5~7年 93%(93%) 8~9年 92%(93%) 保護者 92%(92%)</p> <p>◎子どもたちは様々な行事に生き生きと取り組んでいる。 保護者 95%(94%)</p>	<p>◎児童生徒会活動の活性化に向けた取組を行っている。 教員 95%(94%)</p> <p>◇学校行事や学年行事で、児童生徒が発達段階に応じて主体的に活動できるよう努めた。</p> <p>◇太子学舎においては、4年生が中心となり、畠田学舎においては児童生徒会に5・6学年代表の児童も参画し自治的な活動を進められた。</p>	A (A)	<p>□特別活動の目的を児童生徒に示し、自主性、主体性の涵養に努める。</p>	○	●児童生徒を中心に、生き生きと物事に取り組んでいる様子が見られる。
	異学年交流を工夫し、よりよい人間関係づくりに努めている。	<p>◎他学年の人と一緒に活動することは楽しい。 1~4年 94%(93%) 5~7年 79%(82%) 8~9年 79%(85%)</p> <p>◎行事や日々の中で下級生の手本となるように意識し、活動している。 1~4年 91%(88%) 5~7年 80%(80%) 8~9年 73%(74%)</p> <p>◎行事や日々の中で上級生・同級生から学ぶことがある。 1~4年 84%(86%) 5~7年 79%(78%) 8~9年 82%(85%)</p> <p>◎子どもたちは、異学年との交流を楽しみにしている。 保護者 80%(80%)</p>	<p>◎学校行事や教育活動の中で、異学年交流を工夫し、よりよい人間関係づくりに努めている。 教職員 93%(97%)</p> <p>○4-3-2制の取組を推進している。 教職員 86%(65%)</p> <p>◇特別活動部が中心となって、異学年交流を企画・運営した。(運動会、体育大会、文化発表会(音楽会)、1年生を迎える会、9年生を送る会、球技大会、かるた大会 など)</p> <p>◇今年度より、4年生が畠田学舎に来校し、体育大会の5・6・7・8~9年の表現演技を見学し、上級生から刺激と感動を得られる機会を設定した。</p> <p>◇日常的に異学年が交流している場面を、王南通信や学年通信等で保護者や地域に伝えた。それらの様子について、視察に来られた方々へは、児童生徒会がスライドを用いて紹介した。</p>	A (A)	<p>□学校教育目標である「協創」において、人を大切に育てる力を育むため、学校行事を中心とした取組を通して人間関係の構築を図る。</p> <p>□4-3-2制の各学年区分を意識した取組のさらなる充実に向け、学年主任を中心に異学年が連携し、学校行事の実施を検討している。</p>	○	●学校行事を含む教育活動には、準備等の面で負担になる部分があるだろうが、人間関係づくりや思い出づくりには欠かせないものなので、充実させてほしい。
	進路指導 キャリア教育	<p>勤労観や職業観を養い、将来の進路や生き方を考えさせる指導をしている。</p> <p>◎目標に向かってあきらめずに取り組んでいる。 1~4年 95%(95%) 5~7年 93%(94%) 8~9年 89%(90%)</p> <p>◎学校では、将来の進路、夢、目標について学習する機会がある。 5~7年 96%(94%) 8~9年 96%(97%)</p> <p>◎学校は、子どもたちに自分の目標に向かって粘り強く取り組むよう指導している。 保護者 82%(80%)</p> <p>○学校は、子どもたちに、将来の生き方や進路を考えさせている。 保護者 76%(76%)</p>	<p>◎学校では探究的な学習を実施している。 教職員 88%(87%)</p> <p>◎児童生徒に将来の夢や生き方、進路について考えさせようとしている。 教職員 94%(94%)</p> <p>◇ゲストティチャーによる講義と実技、福祉体験、夢先生、進路学習(ようこそ先輩)等を中心にキャリア教育の取組を進めた。</p> <p>◇4年生で「旅立ちの式」、7年生で「立志式」を実施し、節目を意識させることで、今後の目標を立てる機会とした。</p>	A (A)	<p>□9年生の進路選択を中心としたキャリア教育について、職業観や勤労観をより豊かに育むため、教育課程上、中心的な役割を果たす教育活動が、道徳科や特別活動であることを意識した上で、学校全体でさらに系統的に取り組んでいく。</p> <p>□キャリアパスポート等を活用し、9年間を見通したキャリア教育を計画的に進める。後期課程で将来の生き方や職業などを考えさせる取組(夢先生・企業プレゼン等)を継続的に進める。</p>	○	◆時代と共に将来の考え方が多様化しているため、固定観念にとらわれず、様々な選択肢があることを児童生徒に伝えることが大切である。

5 全職員が つながる 指導	人権教育	命や人と人とのつながりを大切に取る取組をしている。	◎いじめを許さず、命や人と人とのつながりを大切にしている。 1~4年 97%(97%) 5~7年 97%(97%) 8~9年 96%(97%)  ◎学校は児童生徒間の人間関係を大切に、いじめを許さない教育をしている。 保護者 88%(83%)	○人権教育の重要性を認識し、一人ひとりを大切に教育を行っている。 教職員 100%(97%)  ◇いじめに関するアンケートや人権に関するアンケート、学校独自の生活アンケートを実施し、教育相談に活用した。  ◇生徒指導・特別支援において気になる子・課題のある子・支援を要する子等に関する「見守る子研修」を年2回ずつ実施し、子どもたちの実態とそれに対する取組について教職員で共有し共通理解を図った。  ◇郡人教実践報告(5・8年)に向けた校内研修を通して、児童生徒の実態や取組を全教職員で共有し、共通理解することで人権教育に対する意識の向上を図った。	A (A)	□人を大切にする力を育むため、命を大切にすることや、どうすればいじめがなくなるかをあらゆる機会を通して児童生徒と考える。また、教育相談等の取組をより効果的に行う。  □研究大会への参加や実践報告等を通して、教職員自身の人権感覚を磨く取組を継続する。	○	◆児童生徒の成長のためにも、愛情をもって、ダメなことはダメだときちんと伝えられる指導を期待する。
	特別支援教育	一人一人が心地よく過ごせる学級・学年の雰囲気づくりに努めている。	◎学校には安心して過ごせる雰囲気がある。 1~4年 92%(92%) 5~7年 85%(81%) 8~9年 74%(84%)  ◎学校は、特別支援教育を充実させ、個に応じた指導を行っている。 保護者 96%(95%)	◎ユニバーサルデザインを意識し、一人ひとりが心地よく過ごせる学級・学年の雰囲気づくりに努めている。 教職員 97%(98%)  ◎特別支援教育を充実させ、個に応じた指導を行っている。 教職員 98%(97%)  ◇異学年交流を中心とした自立活動を積極的に取り入れた授業を展開した。  ◇通級指導教室の取組について、職員研修を実施したり、授業見学週間を設定し、理解を深める機会を設定した。  ◇「見守る子研修」を定期的実施し、児童生徒理解を深めた。	A (A)	□特別な支援や通級指導を必要とする児童は、年々増加傾向にある。きめ細やかに対応できるよう、体制の整備が課題である。  □「見守る子研修」に加えて、特別支援教育に関する研修として、児童生徒への関わり方や支援の仕方等をより充実させる必要がある。  □後期課程においては、県立高等学校への進学を希望する生徒への支援の在り方について、自立活動はもちろんのこと、通常学級でのナチュラルサポートによる支援を行い、個別の課題への対応をより充実させる。	○	
II 学校運営に関するもの	I 組織運営	学校運営への参画 校務分掌の活性化	各分掌・学年の連携が円滑に行われている。	◎日頃から業務に対して効果的に取り組み、教育活動の充実に努めている。 教職員 100%(97%)  ◇運営委員会・職員会議、学年会を定期的に開催したことで円滑な校内運営ができた。	A (A)	□一人一役を基本に、学校運営への参画意識をもてる組織にする。  □各部会の企画について、協議事項を全職員が事前に把握できるよう、ICTを駆使し会議をより円滑に進める工夫が必要である。  □各学舎毎の校務分掌を統一し、さらに、総括会議に向けて段階的に会議を設定し、全体で共有し次年度に繋げていく。	○	

	校内研修 授業研究	教育実践や 指導方法の 改善に役立 つ研修を行 っている。	◎子どもたちは、まわりの人に わかるように自分の思いや考え を伝えている。 保護者 81%(74%)	◎言語活動(RS)の充実に向け た学習を行っている。 教職員 97%(96%)  ◎教員がお互いに授業見学を 行い、指導力の向上を図ってい る。 教職員 91%(85%)  ◇校内研修や県や郡を対象とし た公開授業を複数回実施した。 特に、校内研修では、研究協議 に県教委から指導主事を招聘 し、指導力の向上を図った。  ◇若手教員の指導力向上をめ ざして、夏期研修や自主的に授 業を公開する「学び合いweek」 を設定するなどして、授業力の 向上をめざした。  ◇「汎用的基礎読解力向上」の 協力校として県立教育研究所と の連携を生かして研究を推進し た。また、「教職大学院学校実 習」の協力校として、奈良教職 大学院と連携し、教員をめざす 学生の育成に協力した。	A (A)	<input type="checkbox"/> 「主体的に学び、自分の 考えを伝え合う子どもの育 成」を研究主題とし、学校教 育目標の自律・挑戦・協創 における目指す子ども像を 意識して研究を進めた。  <input type="checkbox"/> 全国学力学習状況調査 や総合学力調査、リーディ ングスキルテストの結果を全 職員で分析し、児童生徒の 学びをサポートするため、教 員の授業力向上が必要で ある。	○	
	働き方改革	デジタル化に より、業務軽 減を図ってい る。	◎日頃から業務に対して効果的 に取り組み、教育活動の充実に 努めている。 教職員 100%(97%)  ◇ICT支援員のもと、オンライン による会議、連絡掲示板やグ ループウェアの活用、会議の ペーパーレス化等により業務の 効率化を図っている。  ◇管理職、主幹教諭、教務主 任、事務を中心に、デジタル化に よる業務軽減ができるよう工夫 している。  ◇クラスルームやスライド等の活 用を積極的に行い情報共有を 行った。	A (A)	<input type="checkbox"/> 新校務支援システムや、 県立高校入試に関するWeb 出願システム等への対応に 時間を要しており、勤務が超 過することがある。  <input type="checkbox"/> 定時退勤日を週に1日設 定しているが、定着までは 至っていない。また、令和8 年以降の部活動の在り方と 併せて、勤務時間を超える 部活動の在り方について検 討していく。	○		
2 教育 環境 及び 安全 管理	安全管理 安全教育	安全で安心 な学校への 取組を推進 する。	◇王寺町母の会や西和警察、 西和消防署と連携を図り、避難 訓練や交通安全教室、不審者 対応訓練等を実施する等、児童 生徒の安全意識の向上を図っ た。  ◇1~4年および保護者で、緊急 下校訓練を実施した。  ◇食物アレルギー対応研修、救 命救急講習会、携帯電話使用 に係る安全教室については保護 者にも参加していただき、計画 的に実施した。  ◇PTA、警察、母の会と連携し、 通学路の危険箇所点検や交通 ルールの遵守を指導している。	A (A)	<input type="checkbox"/> 引き続き、関係機関と連 携して、安全管理、安全教育 を進める。  <input type="checkbox"/> 講師を招聘した食物アレ ルギーシミュレーション研修 を毎年年度当初に実施す る。  <input type="checkbox"/> 太子学舎において、次年 度も保護者の協力のもと、 緊急時の引き渡し訓練を実 施する。	○	●家庭教育の分野になる ことまでも学校に求めら れ、負担が大きくなって いるように感じる。しかし、児 童生徒が安全・安心に通 えるよう、学校づくりに尽力 していただきたい。  ◆地区登校班のリーダー に対し、安全指導を行うこ とは大切である。	

		日頃から環境整備・施設整備に努めている。	◎学校は環境美化や施設整備に努め、学習環境が整っている。 保護者 89%(88%)	◇管理職、校務員を中心に校舎の安全管理、施設管理に努めた。  ◇学習意欲の喚起につながるよう、各フロアの掲示として学習教材、ワークシートの配置、ポスター掲示などを積極的に行った。	A (A)	□校舎や設備の老朽化等、日常の些細な変化を捉え、児童生徒が安全に過ごせるよう町教委と連携を図る。  □掲示物等の工夫により、児童生徒の学習意欲を高める環境づくりを進める。	○	●児童生徒がワクワクするよう、工夫された掲示物が校舎内に見られる。
3 地域と 共に ある 学校	保護者・地域 住民との連 携・協力	懇談会・家庭訪問を実施し、連携できる機会をもっている。	◎学校は、学校だより・学年通信・ホームページなどで、学校の様子を分かりやすく伝えている。 保護者 90%(85%)	◎家庭や地域と連携しながら、わかりやすく情報発信を行っている。 教職員 100%(100%)  ◇教員はきめ細かく家庭に連絡を行い、丁寧な対応を行った。  ◇栄養教諭が、給食ブログを毎日HPにアップしている。  ◇王南通信や学年通信を月1回、学校HPに掲載し、保護者や地域に発信した。	A (A)	□学校に関する情報発信については、さらに分かりやすい情報発信の在り方を、保護者・地域等の意見を聞きながら検討する必要がある。  □通信等に関しては、各学舎毎、同一日にメールによる配信を行い、学校HPにアップしたことを通知した。今後は、児童生徒の活躍が伝わる通信を発信していく。	○	◆学校と家庭がしっかりと連携し、どの児童生徒も取り残されることなく、共に見守り、支えていける体制づくりが大切である。
		外部の地域人材を活用して、教育活動を進めた。	◎学校は、保護者や地域の方々、ボランティアの方々や連携しながら教育活動を進めている。 保護者 92%(90%)	◎保護者や地域の方々、ボランティアの方々や連携しながら教育活動を進めている。 教職員 96%(95%)  ◇地域コーディネーターや保護者ボランティアを中心に、1年生の王南プラザや授業サポート等に協力していただいた。	A (A)	□保護者ボランティアを定期的に募り、学習支援をとおして学校を知る機会を充実させる。  □外部人材の活用状況を学年ごとに整理し、学校全体で計画的、継続的に支援いただけるようにしていく。	○	◆ボランティアとして協力する側も「好きな学校」であることを願う。  ◆地域ボランティアの高齢化に伴い、増員を希望する。

( )内は昨年度の数値・評価を表している。